

令和2年度

公立大学法人福井県立大学業務実績評価書

令和3年8月

公立大学法人福井県立大学評価委員会

目 次

本評価の位置づけ	1
I 評価結果	1
1 全体評価	1
2 分野別評価	2
II 項目別評価	6
新学部・新学科の創設	6
教育	6
研究・地域貢献	8
国際化・情報発信	9
業務運営	10

《本評価の位置づけ》

本評価は、公立大学法人福井県立大学評価委員会が、地方独立行政法人法第78条の2第1項の規定に基づき、令和2年度に法人が中期計画に基づき行った業務実績を評価するものである。

評価に当たっては、中期計画で取り組んだ9項目を分野別に、法人からの聴き取り等を参考に、法人が行った自己点検・評価を基にその妥当性の検証と評価を行った。

I 評価結果

1 全体評価

令和2年度の業務実績に対する評価結果は次のとおりである。

目標達成に向けて計画の実施に努めており、**概ね計画どおり達成した**と判断される。取り組んだ9項目の評価については、次のとおりである。

「計画を上回って実施している」	1 計画
「計画を順調に実施している」	7 計画
「計画を十分に達していない」	1 計画

特に評価できる点は、次のとおりである。

- ・新型コロナウイルスの影響により、教育内容や実施体制の確保など非常に難しい1年であったが、大学独自の授業料減免の実施やパソコンの貸し出しサービス、通信環境整備にかかる経済的援助を実施したことなど、学生に対してきめ細やかな支援を実施したこと。

2 分野別評価

1 のとおり、令和2年度計画を概ね計画どおり進めたと認められるが、2年度の進行状況を踏まえた評価委員会の提言は、次のとおりである。

新学部・新学科の創設

- ・ 県立大学であるので、県内高校生を多く取り込み、福井県の発展につなげることが重要である。先端増養殖科学科においても、多くの県内出身の学生が入ることを期待する。
- ・ 創造農学科において、学生が品種改良に携わるような実践的な取組みは特徴的であり評価できる。

教育

- ・ 看護学科における臨地実習において、コロナ禍前の状況に戻すことは難しいため、シミュレーション設備を利用した実習や模擬患者を使った実習等により実習時間を確保することが望ましい。
- ・ 新型コロナウイルスの影響を受けてオンラインが発達したことにより、先生と学生の繋がりは維持できている一方で、学生間のつながりが希薄になっているため、学生間のつながりが維持できるよう大学としてサポートが必要である。
- ・ コロナ禍において、学生の声を聞くことは重要であるため、引き続き定期的にアンケートを実施する等、学生からの声を受け取る体制を整える必要がある。

研究・地域貢献

- ・昨年度、研究分野をB評価としたが、今年度は各達成指標において目標を達成しており、評価できる。
- ・地域産業・企業との連携を重視することが重要であり、地域のニーズを受けて、どのように教育に反映させていくか検討する必要がある。
- ・特許については、地域や新しい事業に活かせるものが多いため、広く社会に知れ渡る工夫を行い、地域貢献へとつながることを期待する。

国際化・情報発信・業務運営

- ・国際化については、新型コロナの影響もあり、学生の海外留学の機会が失われているため、今後、達成指標の達成に向けた対応策が必要である。
- ・国際化は海外大学との強いつながりが重要であるため、教員が海外大学に長期滞在し、現地でネットワークを構築して県立大学に帰ってくる仕組みがあるとより国際化が発展する。
- ・学外から見ると、大学のキャンパス内では何をしているか不明な部分が多いため、大学祭等の機会を利用して県民がキャンパス内に入る機会を設けることが必要である。
- ・つぐみ賞の創設は、学生の取組みに焦点をあてた賞であり、評価できる。

■中期計画分野別評価結果

中期計画分野	項目数	評 価 結 果			
		S 計画を上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分に 実施していない	C 計画を 実施していない
新学部・新学科の創設	1		1		
教 育	3	1	2		
研 究	1		1		
地 域 貢 献	1		1		
国 際 化	1			1	
情 報 発 信	1		1		
業 務 運 営	1		1		
計	9	1	7	1	

■中期計画分野別評価結果

評価項目（中期計画）		法人 評価	委員会 評価
I	新学部・新学科の創設	A	A
II	教育		
	1) 教育内容、実施体制の強化	A	A
	2) 多様な学生の受入れ	A	A
	3) 学生への支援	S	S
III	研究	A	A
IV	地域貢献	A	A
V	国際化	A	B
VI	情報発信	A	A
VII	業務運営	A	A

分野		法人の自己 点検・評価	概要	評価委員会 の評価	特記事項
I 新学部・新学科の創設		A	<p><総括> 令和2年4月に生物資源学部内に「創造農学科」を開設し実践的な教育を開始したほか、海洋生物資源学部内の「先端増養殖科学科」について、令和4年4月の開設に向け文部科学省との事前相談や施設設計等を進めた。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「創造農学科」では、公設試験場研究員や経営農家、企業実務者等の特任講師によるオンライン授業や、種子・苗および食材等を各学生の自宅に送り各自で取り組む実習等、実践を重視した教育を開始した。 ・「先端増養殖科学科」について、令和3年4月の届出に向け文部科学省との事前相談や新しい教育研究施設の設計業務の実施等、開設準備を進めた。 ・古生物関連学部については、有識者会議を開催し、教育研究内容等について議論した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先端増養殖科学科においても、多くの県内出身の学生が入ることを期待する。
II 教育	1 教育の内容、 教育実施体制の 強化	A	<p><総括> 新型コロナウイルスの影響により対面授業の実施が困難である中、前期はすべてオンラインにより授業を実施したほか、後期は感染状況等に応じて対面と遠隔を切り替えながら授業を実施する等、学生の安全と健康を守りつつ学修機会の確保を図った。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンの貸出しサービスや自宅の通信環境整備にかかる経済的助成等、学生が滞りなく遠隔授業を受けることができるよう支援を行った。 ・「ふくいアカデミックアライアンス」が実施する共同開講授業に参画し、後期に5科目をオンラインにより提供した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学科における臨地実習において、コロナ禍前の状況に戻すことは難しいため、シミュレーション設備を利用した実習や模擬患者を使った実習等により実習時間を確保することが望ましい。

分野		法人の自己 点検・評価	概要	評価委員会 の評価	特記事項
II 教育	2 多様な学生の 受入れ	A	<p><総括> 私費外国人留学生を対象にオンラインを活用した入試広報活動を行ったほか、創造農学科に社会人等を対象とした3年次編入試験の導入を決定する等、多様な学生の受入れに向け改革を進めた。</p> <p><主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・私費外国人留学生対象のオンライン入試説明会の開催や全国の日本語学校への広報活動を行った結果、特別選抜（私費外国人留学生）において昨年度比2倍の22名が出願し7名が合格・入学した。 ・創造農学科において、令和3年度から社会人等を対象とした書類審査および面接等の二段階選抜による3年次編入試験の導入を決定した。 ・インターネット出願システムの整備を進め、令和3年度からの運用開始を決定した。 	A	
	3 学生への支援	S	<p><総括> 新型コロナウイルスの影響によりオンラインによる就職活動が余儀なくされる中、WEB面接専用室の設置やWEB面接対策支援を行い98.0%の高い就職率を維持したほか、新型コロナウイルスの影響により困窮する学生に対し経済的支援等を実施した。</p> <p><主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業によるオンライン面接や説明会に学生が参加できるよう、WEBカメラ付きパソコン等を配備した専用室を新たに整備した。 ・経済的に困窮している学生等181人を対象に、大学独自の授業料減免を実施した。 ・全学生対象のアンケートの実施や学生オンラインモニターの雇用等により、学生生活の状況を把握し、感染防止対策や学生支援の充実に活用した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても学生に対してきめ細かな支援を実施したことは評価できる。

分野	法人の自己 点検・評価	概要	評価委員会 の評価	特記事項
Ⅲ 研究	A	<p><総括> 外部研究資金の獲得につながる学内セミナーの開催や動画配信等を行った結果、研究に関する達成指標4項目で目標値を達成したほか、福井学に関するブックレットを2巻発行し、本学の研究成果を県民に還元した。</p> <p><主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内で科研費獲得セミナーを開催したほか、申請書作成の理論についてまとめた動画の配信や事務局職員による研究計画書作成の相談支援等を実施した。 ・水産増養殖に関する研究成果や永平寺・道元禅師に関する研究成果をまとめたブックレットを発行した。 ・大学発ベンチャー企業創設支援制度を活用し、本学で育成する水稻品種等の種苗販売や商品開発事業を行う会社の設立を支援した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特許については、地域や新しい事業に活かせるものが多いため、広く社会に知れ渡る工夫を行い、地域貢献へとつながることを期待する。
Ⅳ 地域貢献	A	<p><総括> 新型コロナウイルスの影響により対面での公開講座が困難である中、後期からオンラインで公開講座や地域経済研究所セミナーを実施し「県民の学び」を応援したほか、海洋生物資源学部の新学科開設に向け嶺南地域におけるネットワークづくりを進めた。</p> <p><主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期から、場所や時間を問わず受講できるオンライン公開講座を計22講座実施した。 ・地域経済研究所オンデマンドセミナーを開催し、5テーマ12本の動画を配信した。 ・若狭地域の自治体や水産事業者等が参加した「嶺南地域・福井県立大学 地域振興連携推進会議」を立ち上げ、新学科開設に向けて協力を依頼した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズを受けて、どのように教育に反映させていくか検討する必要がある。

分野	法人の自己 点検・評価	概要	評価委員会 の評価	特記事項
V 国際化	A	<p><総括> 新型コロナウイルスの影響により海外留学がすべて中止となったが、海外協定校とのオンライン交流会や海外大学と連携したオンライン短期語学研修の実施等、Withコロナ時代におけるオンライン語学交流を実施した。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生を対象としたオンライングループ交流会の開催や県の伝統文化に触れるバスツアーの開催等、様々な支援やイベントを実施した。 ・台湾や中国の協定校をはじめ3つの海外大学とオンライン交流会を開催し、延べ40人が参加した。 ・フリンダーズ大学（オーストラリア）や高雄科技大学（台湾）との短期語学研修をオンラインで実施し、延べ15人が参加した。 ・学生向けにworld caféのインストラクターによるオンライン無料英会話レッスンを開催し、延べ330人が受講した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の海外留学の機会が失われているため、今後、達成指標の達成に向けた対応策が必要である。 ・教員が海外大学に長期滞在し、現地でネットワークを構築して、帰ってくる仕組みがあるとより国際化が発展する。
VI 情報発信	A	<p><総括> ホームページやプレスリリース等これまでの情報発信ツールに加え、新たにSNSを活用した情報発信の開始を決定したほか、大学100周年ロゴ入りの大学グッズを制作し高校生等に配布する等、本学の存在や魅力の浸透を図った。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から、大学公式TwitterおよびFacebookを立ち上げ、大学ホームページと連携しながら情報発信を行うことを決定した。 ・大学100周年ロゴが入った付箋、トートバッグ等を制作し高校生等に配布した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大学祭等の機会を利用して県民がキャンパス内に入る機会を設けることが必要である。

分野	法人の自己 点検・評価	概要	評価委員会 の評価	特記事項
VII 業務運営	A	<p><総括> 理事長、学長、学部長等で組織する新型コロナウイルス感染防止対策会議等を設置し、本学の感染防止対策や学生支援について対応したほか、計画的な予算執行に努めた。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策会議を23回、チーム会議を44回開催し、本学の感染防止対策や学生支援等について対応したほか、感染者発生時の対応マニュアルの作成や図上訓練の実施等、有事における対応を確認した。 ・トイレ給水栓の自動化や県大レストラン等への飛沫防止パネルの設置等、学生が安心して大学生活を送ることができるよう新型コロナウイルス感染防止対策を実施した。 ・プロパー職員採用募集を初めて実施し、133名の申込みがあり、令和3年4月から1名を採用した。 ・財政運営面において、運営交付金が毎年削減される傾向の中、計画的な執行と経費削減、ふるさと納税を活用した基金創設による財源の確保等に努めた。 	A	

公立大学法人福井県立大学評価委員会 委員名簿

氏 名	職	備 考
あさくら ゆき 朝倉 雪	農業	
しらす としろう 白須 敏朗	一般社団法人大日本水産会 会長	委員長
てしま まさこ 豊嶋 雅子	フクビ化学工業(株)取締役執行役員	
ふるたに きよかず 古谷 清和	敦賀気比高等学校長	
やまもと のりこ 山本 則子	東京大学大学院医学系研究科健康科学・ 看護学専攻 高齢者在宅長期ケア看護学/ 緩和ケア看護分野 教授	

(50 音順)